

# 福島県の漁港 2023

## Fishing Ports of Fukushima

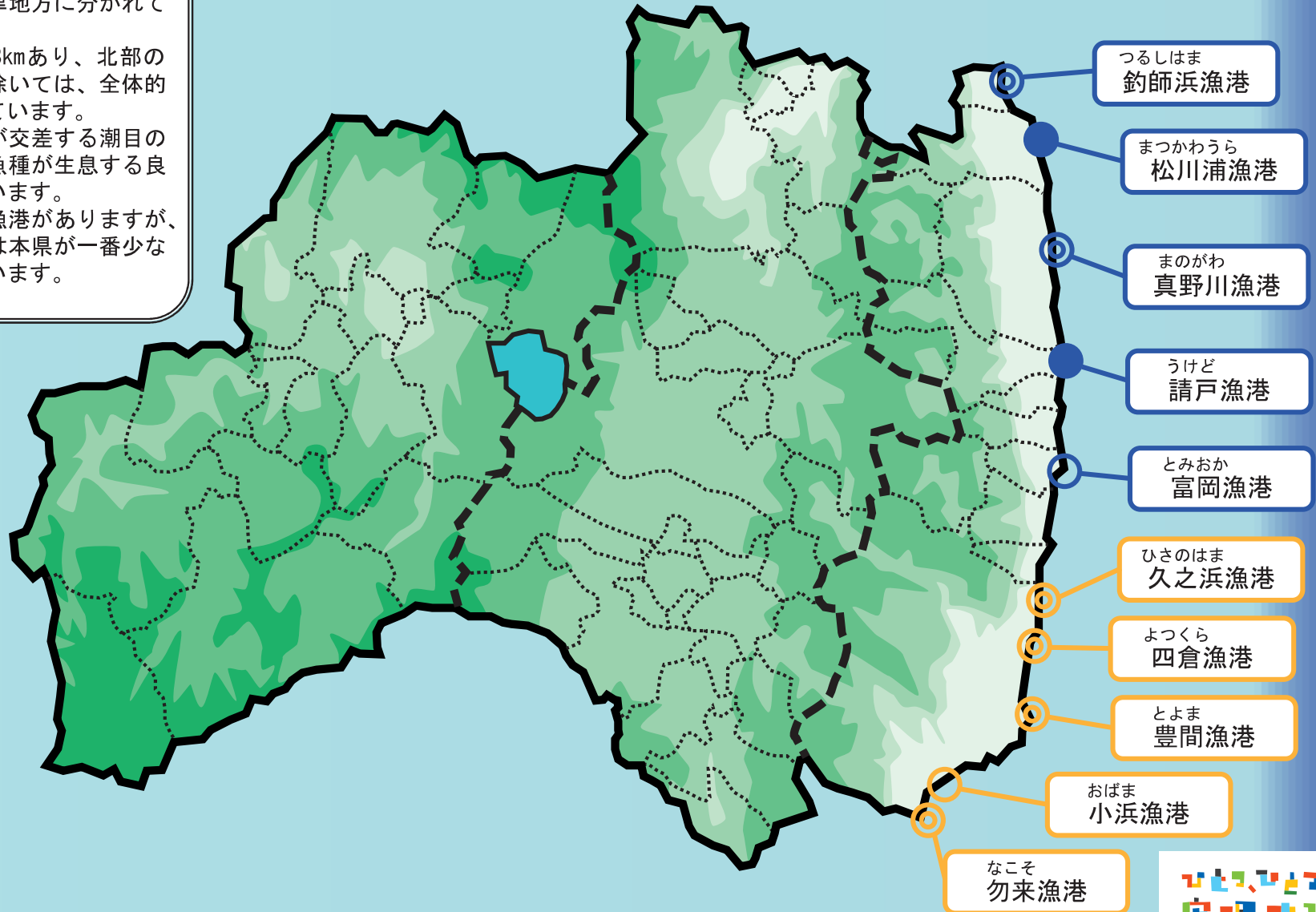
福島県は東北地方の最南端に位置し、総面積約13,783km<sup>2</sup>で、北海道、岩手県に次いで3番目の広さです。

東部の阿武隈高地、西部の奥羽山脈が南北に走っているため、気候条件の異なる浜通り、中通り、会津地方に分かれています。

海岸線総延長は約163kmあり、北部の内湾性地形の松川浦を除いては、全体的に単調な海岸線となっています。

本県沖は黒潮と親潮が交差する潮目の海であり、多種多様な魚種が生息する良好な漁場が形成されています。

本県には全10港の漁港がありますが、都道府県単位の漁港数は本県が一番少なく、全て県が管理しています。



### 凡 例

相馬港湾建設事務所  
管理の漁港

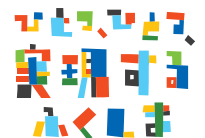
小名浜港湾建設事務所  
管理の漁港

- 第3種漁港
- ◎ 第2種漁港
- 第1種漁港

福島県土木部港湾課  
〒960-8670  
福島県福島市杉妻町2番16号  
電 話 : 024-521-7496  
E-Mail : kouwan@pref.fukushima.lg.jp

(令和5年6月作成)

福島県土木部港湾課



# 東日本大震災からの復旧復興

平成23年3月11日に発生した東日本大震災による地震と津波により、本県の全ての漁港及び漁港海岸は壊滅的な被害を受けました。

本県土木部では、この困難な状況に立ち向かうべく、県職員と他府県からの派遣職員が一丸となり復旧・復興に取り組みました。震災後の災害査定を経て復旧工事等に着手し、平成24年6月には岸壁等の復旧により限定的ながら操業が再開されるまでになりました。

しかし、原子力発電所事故による避難区域内に位置していた請戸漁港（浪江町）と富岡漁港（富岡町）は、立ち入りが制限された影響により、復旧工事の着手までに約2年半の期間が掛かりました。

10漁港のうち平成29年度までに4漁港、平成30年度に5漁港、令和2年度に残る請戸漁港が完了したことで、全ての漁港の復旧・復興が完了しました。



被災直後の松川浦漁港

漁港復旧・復興の工事経過

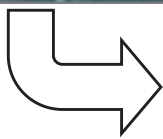
■ : 工実施 (海岸含む)

漁港名	H23	24	25	26	27	28	29	30	R1	2	備考
釣師浜漁港 (新地町)	■	■	■	■	■	■	■	■			
松川浦漁港 (相馬市)	■	■	■	■	■	■	■	■			
真野川漁港 (南相馬市)	■	■	■	■	■	■	■	■			
請戸漁港 (浪江町)			■	■	■	■	■	■	■	■	避難区域
富岡漁港 (富岡町)				■	■	■	■	■			避難区域
久之浜漁港 (いわき市)	■	■	■	■	■	■	■	■			
四倉漁港 (いわき市)	■	■	■	■	■	■	■	■			
豊間漁港 (いわき市)	■	■	■	■	■	■	■	■			
小浜漁港 (いわき市)	■	■	■	■	■	■	■	■			
勿来漁港 (いわき市)	■	■	■	■	■	■	■	■			

※請戸漁港は平成29年3月31日、富岡漁港は平成29年4月1日に避難区域解除



被災直後  
(平成23年9月)



復旧後  
(平成30年3月)



松川浦漁港の復旧状況【令和2年度全建賞受賞】



請戸漁港竣工式 (令和3年11月20日)



被災直後  
(平成23年9月)



復旧後  
(令和3年3月)



請戸漁港の復旧状況【令和4年度全建賞受賞】

# 東日本大震災からの復旧復興

平成24年6月に3種を対象に始まった沿岸漁業の試験操業は、以下の状況から令和3年3月に終了し、令和3年4月から本格操業に向けた移行期間として新たな段階に進みました。

- ◇平成29年3月に試験操業対象魚種の表記が「すべての魚介類(出荷制限魚種を除く)」に変更。
- ◇令和2年2月にコモンカスベの出荷制限が解除され、政府による水産物出荷制限指示が全て解除。

※令和4年2月にクロソイの出荷制限措置がなされています。

- ◇漁船・漁港・市場等の生産体制が一定程度回復。
- ◇県産水産物の出荷先都道府県が震災前とほぼ同様に回復し市場において一定の評価を得た。等

沿岸漁業における水揚量は、平成24年の約122トンから毎年増加し、令和4年は震災前の21.6%に相当する5,604トンに達しました。



相馬双葉地区（松川浦漁港）



いわき地区（豊間漁港）

本県で水揚げされ販売される漁獲物については、国が定める食品中の放射性物質に関する基準値（100Bq/Kg）を超えたものが万が一にも流通することのないよう、県緊急時環境放射線モニタリング検査で安全性を確認するほか、福島県漁業協同組合連合会が定める出荷方針に基づき、各産地市場において自主的な検査が行われています。

## 【放射性物質の検査】



解説）試験操業：県緊急時環境放射線モニタリング検査により安全性が確認された魚種を対象に、小規模な漁獲と販売により出荷先での評価を調査することを目的とした操業



# 漁港内の賑わい

復旧・復興事業の進捗に伴い、漁港周辺の地域では様々なイベントの開催や海水浴場の再開に加え、観光施設の整備が進むなど、浜の賑わいが戻ってきました。



相馬復興市民市場 「浜の駅」  
令和2年10月25日 グランドオープン



相馬市尾浜ビーチバレーボール場  
令和2年7月 オープン



釣師浜海水浴場 令和元年に再開  
(釣師浜漁港 谷地小屋地区海岸)



原釜尾浜海水浴場 平成30年に再開  
(松川浦漁港 尾浜地区海岸)



四倉漁港 道の駅よつくら港



請戸漁港竣工式で披露されたペイントアート  
【東北芸術工科大学（山形市）の学生と地元の  
なみえ創成小・中学生が描きました】

# 第3種漁港 まつかわうら 松川浦漁港

所在地：相馬市

漁港指定：昭和26年7月10日(農林省告示第255号)

## 全 景



### 主な魚種

かれい、ひらめ、しらす、めばる、たこ、いか、ほっき貝 等



昭和37年頃の全景

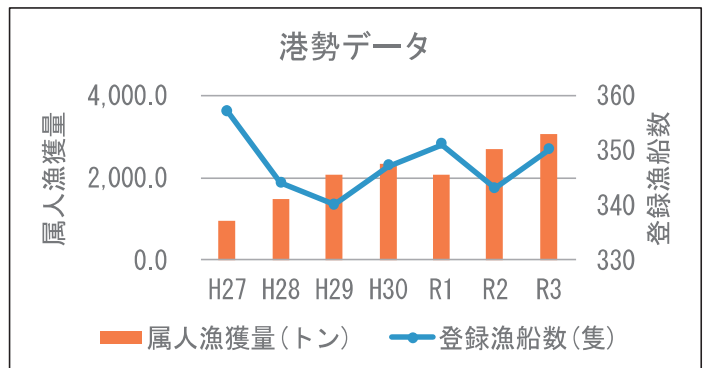
### 【流通拠点漁港】

景勝地「松川浦」内に築造された漁港。金華山沖合の好漁場に近い好条件の地点に位置していることから、これまでめざましい発展を遂げています。

漁獲量、漁獲高ともに県内一を誇る漁港であり、港勢の増加に伴って外洋側に新港を整備し、現在は6地区の港で構成されています。

主な漁業種類は、沖合底びき網漁業、機船船びき網漁業、固定式刺し網漁業、浦内では海苔等の海面養殖業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	357	962.7	1,340.6
H28	344	1,462.9	1,805.9
H29	340	2,056.0	2,633.2
H30	347	2,317.8	3,270.2
R1	351	2,078.6	2,782.5
R2	343	2,686.3	3,612.0
R3	350	3,046.6	3,098.3



解説) 第3種漁港：利用範囲が全国的な漁港





解説) 第2種漁港：利用範囲が第1種漁港よりも広く第3種漁港ではない漁港

# 第3種漁港 うけど 請戸漁港

所在地：双葉郡浪江町 漁港指定：昭和26年7月10日（農林省告示第255号）



主な魚種  
ひらめ、しらす、しらうお、ほっき貝、すずき 等



昭和50年頃の全景

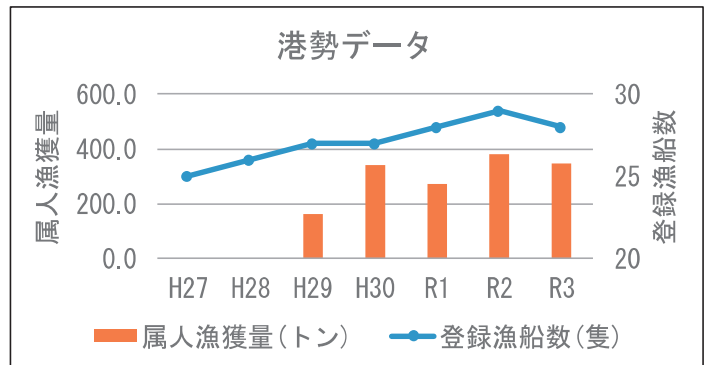
## 【流通拠点漁港・防災拠点漁港】

請戸川河口に築造された河口港であり、漁業活動の進展に伴い漁港施設を外洋側に拡張するなど整備を進め、昭和63年に第3種漁港の指定を受けるなど、本県沿岸中央部における水産業拠点として発展してきました。

主な漁業種類は、機船船びき網漁業、固定式刺し網漁業、小型機船底びき網漁業（貝けた網漁業）が営まれています。

平成8年には、福島県地域防災計画に基づく防災拠点漁港の指定を受け、耐震岸壁の整備が図られるなど、緊急時の物流拠点としても重要な役割を担っている漁港です。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	25	—	—
H28	26	—	—
H29	27	164.8	—
H30	27	342.1	—
R1	28	271.4	—
R2	29	381.6	381.5
R3	28	347.4	359.8



解説) 第1種漁港：利用範囲が地元の漁業を主とする漁港



# 第2種漁港 つるしはま 釣師浜漁港

所在地：相馬郡新地町 漁港指定：昭和28年5月28日（農林省告示第361号）



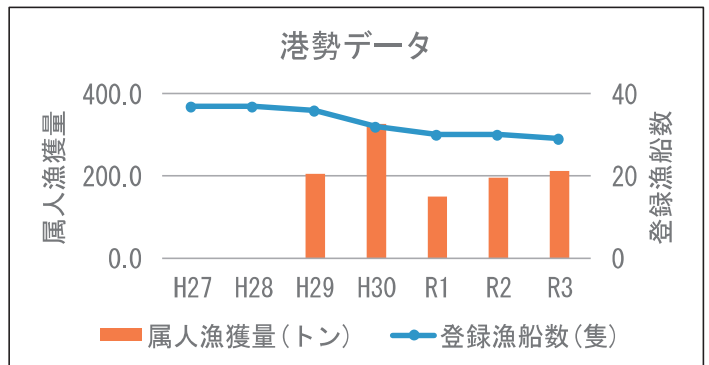
## 【生産拠点漁港】

本県沿岸の最北端に位置し、濁川河口に防波堤が築造され、天然の砂浜を利用して沿岸漁業が営まれていました。

昭和28年に第1種漁港の指定を受け漁港施設の整備が進み、昭和63年には第2種漁港へ格上げされました。

主な漁業種類は、機船船びき網漁業、固定式刺し網漁業、かご漁業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	37	—	—
H28	37	—	—
H29	36	206.5	—
H30	32	326.4	—
R1	30	150.3	—
R2	30	195.9	—
R3	29	212.6	212.6



解説) 登録漁船数：漁船の所有者または使用者の住所が当該漁港地区となっている漁船の隻数



# まのがわ 第2種漁港 真野川漁港

所在地：南相馬市鹿島区 漁港指定：昭和28年5月28日（農林省告示第361号）



昭和50年頃の全景



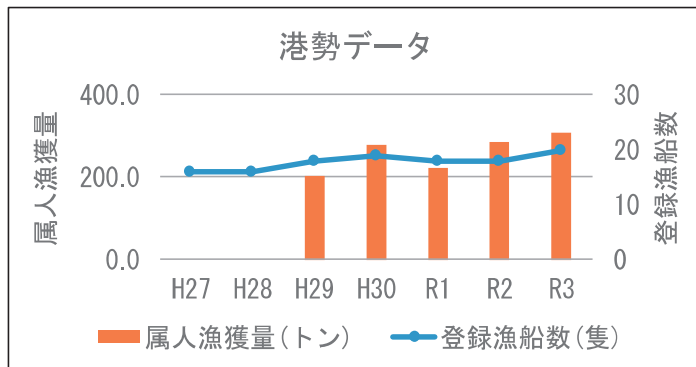
## 【生産拠点漁港】

真野川の旧河口を利用した河口港であり、古くから無動力船による釣りや、延縄漁が盛んに行われてきました。真野川河口は常に安定性を欠き出漁に影響を受けていました。

昭和28年に第1種漁港の指定を受け、本格的な漁港整備が進み、昭和63年には第2種漁港に格上げされました。

主な漁業種類は、機船船びき網漁業、固定式刺し網漁業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	16	—	—
H28	16	—	—
H29	18	203.9	—
H30	19	278.7	—
R1	18	221.7	—
R2	18	283.5	—
R3	20	306.7	309.0



解説) 属人漁獲量：当該漁港地区内に居住する漁業者の漁獲量

# 第1種漁港 とみおか 富岡漁港

所在地：双葉郡富岡町 漁港指定：昭和26年11月14日（農林省告示第401号）



主な魚種  
ひらめ、かれい、たこ 等

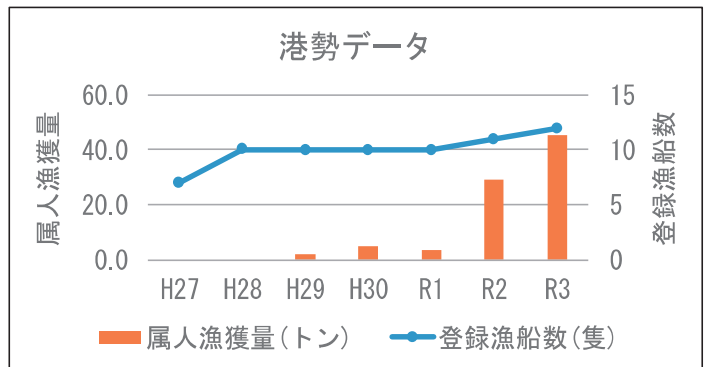


小良ヶ浜漁港（富岡漁港の前身）の当時の様子  
（写真は富岡町教育委員会提供）

本漁港沿岸は魚介類が豊富で明治初期から砂浜を利用して小舟を出し漁業が営まれており、昭和26年に漁港指定を受けましたが、砂浜の減少等により出漁が不可能となり、昭和34年から日本一小さい漁港と呼ばれた小良ヶ浜漁港に漁船が廻されました。その後、小良ヶ浜漁港も利用困難となり、現在の地に昭和56年から漁港整備に着手し、平成5年に開港。平成6年3月には富岡町から県に管理者が移管されました。

主な漁業種類は、釣りや固定式刺し網漁業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	7	—	—
H28	10	—	—
H29	10	2.0	—
H30	10	5.2	—
R1	10	3.4	—
R2	11	29.0	—
R3	12	45.2	—



解説) 属地陸揚量：漁業者が当該漁港に陸揚げした量



# 第2種漁港 ひさのはま 久之浜漁港

所在地：いわき市 漁港指定：昭和26年7月10日(農林省告示第255号)

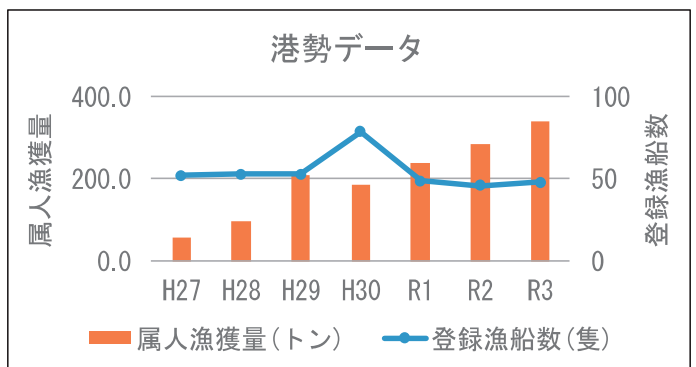


## 【生産拠点漁港】

大正2年から漁港整備が始まり、水産業の発展に伴い昭和26年に第2種漁港の指定を受け、県が管理者となって防波堤等の延伸などを進めてきました。

主な漁業種類は、沖合底びき漁業、小型機船底びき漁業(板びき網漁業)、固定式刺し網漁業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	52	58.8	58.8
H28	53	99.0	106.0
H29	53	208.0	224.0
H30	79	186.0	—
R1	49	239.1	—
R2	46	285.3	—
R3	48	339.7	374.5



解説) 流通拠点漁港：産地市場を有し、水産物の集出荷の拠点となる漁港

# 第2種漁港 よつくら 四倉漁港

所在地：いわき市 漁港指定：昭和26年7月10日(農林省告示第255号)



### 主な魚種

ひらめ、かれい、たこ、ほっき貝 等



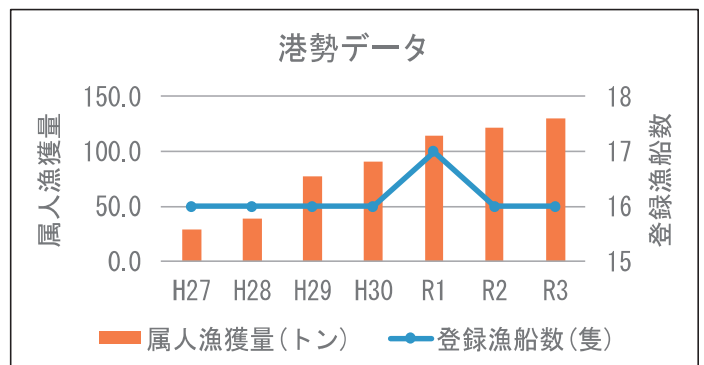
昭和39年の全景

本港の歴史は古く、安政2年(1855年)に漁船20隻で漁労に従事していたことが古文書に記されています。港勢の増加に伴い昭和5年に県に管理が移管され、平成14年に第2種漁港に格上げされました。

国道6号に隣接する用地に「道の駅よつくら港」が整備され賑わいを見せています。

元々は北洋漁業(サケ・マス)の基地でしたが、現在は主に小型機船底びき網漁業(板びき網漁業)、機船船びき網漁業、固定式刺し網漁業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	16	28.9	28.9
H28	16	38.9	38.9
H29	16	77.9	77.9
H30	16	91.0	—
R1	17	113.7	—
R2	16	121.3	—
R3	16	130.2	—

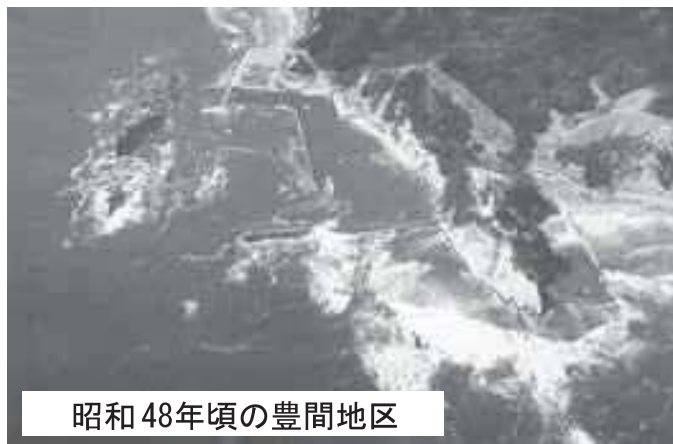


解説) 生産拠点漁港：漁港の沖に優れた漁場や資源が立地するなど、生産地として中核的な役割を担う漁港



# とよま 第2種漁港 豊間漁港

所在地：いわき市 漁港指定：昭和26年7月10日(農林省告示第255号)



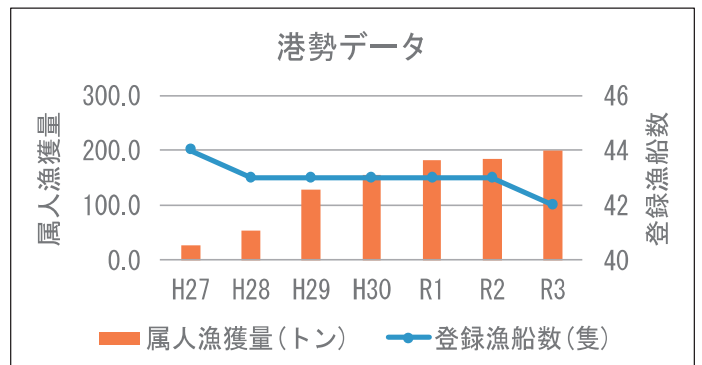
## 【生産拠点漁港】

本港は、南から豊間地区、薄磯地区、沼之内地区の3地区で構成されています。

漁港の整備は明治36年から始まり、昭和26年には第2種漁港の指定を受け、県に管理が移管されました。

主な漁業種類は、小型機船底びき網漁業(板びき網漁業)、かご漁業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	44	27.0	19.4
H28	43	54.9	31.6
H29	43	128.0	88.8
H30	43	156.0	479.2
R1	43	181.7	681.9
R2	43	184.1	781.9
R3	42	199.3	433.9



解説) 防災拠点漁港：大規模地震等が発生した際に緊急物資や避難者の海上輸送等を行う地域防災計画に位置付けられた漁港

# 第2種漁港 なこそ 勿来漁港

所在地：いわき市 漁港指定：昭和26年7月10日(農林省告示第255号)

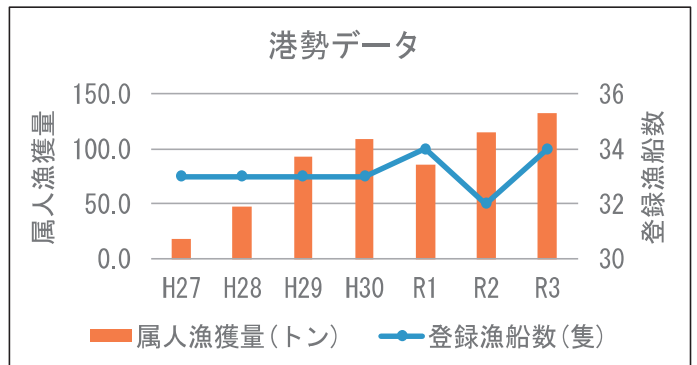


県沿岸の最南端に位置する漁港であり、茨城県平潟漁港に隣接しています。

漁港整備は昭和13年に始まり、昭和22年に県に管理が移管されてから、急速な整備がなされました。

主な漁業種類は、小型機船底びき網漁業(板びき網漁業)、固定式刺し網漁業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	33	18.0	18.0
H28	33	47.3	47.3
H29	33	93.1	93.1
H30	33	109.0	25.0
R1	34	86.1	—
R2	32	115.2	—
R3	34	133.0	62.7





# 第1種漁港 おばま 小浜漁港

所在地：いわき市 漁港指定：昭和26年11月14日（農林省告示第401号）



主な魚種  
うに、あわび、ひらめ、たこ 等



昭和40年頃の全景

滑川及び馬坂川の河口に開けた天然の漁港として、古来より利用されています。

昭和初期はアワビの特産地と知られ、宮内庁に献上されていました。

昭和8年に現在の泊地が完成して以来、防波堤の築造等の整備が行われ、昭和36年には県に管理が移管されました。

主な漁業種類は、釣りやあわび・うに漁業が営まれています。

年度	登録漁船数 (隻)	属人漁獲量 (トン)	属地陸揚量 (トン)
H27	19	—	—
H28	20	0.3	0.3
H29	20	—	0.3
H30	20	—	0.3
R1	21	1.5	—
R2	21	2.7	—
R3	19	3.2	—

